

2 アトピーとリンフォーマの病態的類似点

Pathological similarities between atopic dermatitis and cutaneous T cell lymphoma

管 析

SUGA Hiraku

東京大学大学院医学系研究科皮膚科学講師

Summary

皮膚悪性リンパ腫(cutaneous T cell lymphoma;CTCL)は、アトピー性皮膚炎(atopic dermatitis ; AD)と血液学的、免疫学的側面から多くの類似点が報告されている。フィラグリンやロリクリンはAD患者の病変部において発現が低下していることが知られているが、CTCLにおいても低下していることが明らかになった。Thymic stromal lymphopoietin (TSLP)はADにおいてTh2(2型ヘルパーT細胞)型の免疫応答を誘導する働きをもつ。CTCL患者では皮膚にTSLPが高発現し、TSLPを誘導するペリオスチンも患者皮膚で高いレベルで発現し、病勢と相関していた。これらの結果から、CTCLとADはバリア機能異常、Th2優位の微小環境という点で病態的に類似していると考えられる。

フィラグリン

表皮の顆粒細胞で産生される塩基性蛋白質の一種。皮膚のバリア機能に欠かすことのできない角質層を形成するにあたり、ケラチンとともに重要な役割を担っている。

TSLP(thymic stromal lymphopoietin)

TSLPはTh2型の免疫応答を誘導するサイトカインであり、皮膚では表皮角化細胞が産生することが知られている。

KEY WORDS

フィラグリン/TSLP/バリア機能異常/Th2/TARC